

10月25日正午必着

明石春浦先生書

竹影掃階塵不動
月輪穿沼水無痕
（禪林）

ちくえいさしをはらってちりうごかず
竹影掃階塵不動、月輪穿沼水無痕（禪林）

竹の影がきざしをはらっても塵は立たず、月輪が沼にうつっても水面にはその跡をとどめない。俗念妄想を絶した境地。葉根譚にみゆ。

明石幸子書

月影の到らぬ里は
なけれども眺むる人の
心にぞ住む
（續千・源空）

つきかげ
月影の 到らぬ里は なけれども 眺むる人の 心にぞ住む（續千・源空）

雲天宜北戸塔廟似西方林下僧無
事江清日正長石泉盈掬冷山實滿
枝香寂寞傳心印無言尔已忘

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

雲行雨施 (易 經)

雲行き雨施す

雲が出て雨をふらし万物を育成する。

雲邊月色人千里 (陳 普)
竹裏秋聲酒一壺

雲邊の月色人千里、
竹裏の秋聲酒一壺

雲間の月は千里はなれた人をてらし、己れ
は一壺の酒を酌んで竹林の秋声をきく。

送韓司直 (皇甫冉)

韓司直を送る 皇甫冉

游吳還適越 來往任風波

呉に遊び 還た越に適き 來往 風波に任す

復送王孫去 其如芳草何

復た王孫を送り去る 其れ芳草を如何せん

山明殘雪在 潮滿夕陽多

山明らかにして 殘雪在り 潮滿ちて 夕陽多し

季子留遺廟 停舟試一過

季子 遺廟を留む 舟を停めて 試みに一たび過らんことを

房ながらまろき葡萄は 仰向きに月の光にうちかざし食む (北原 白秋)

半紙部規定課題A

10月25日正午必着

石 掬
泉 冷
盈 皿

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

10月25日正午必着

行書

石泉盈
掬冷

隸書

石泉盈
掬冷

明石春浦先生書

草書

石泉盈
掬冷

行草書

石泉盈
掬冷

北向きの戸を開けば、雲たなびく空のまことよろしき景色 堂塔のたたずまいは、まるで西方浄土のよう
林の下に、僧たちは何の俗事もなく 江は清く澄んで、日は今や暮れなずむころ
岩石の間にわき出る泉、手にいっばいにすくえばひんやりと冷たく 山中の木々は、枝にいっばいに実をつけてかぐわし
い
ひっそりとしずかに、仏心のしるしを伝え、ことば無しということすらをも、もはや忘れてしまった

西郊蘭若

羊士諤

雲天宜北戸
塔廟似西方
林下僧無事
江清日正長
石泉盈掬冷
山實滿枝香
寂寞傳心印
無言亦已忘

西郊の蘭若

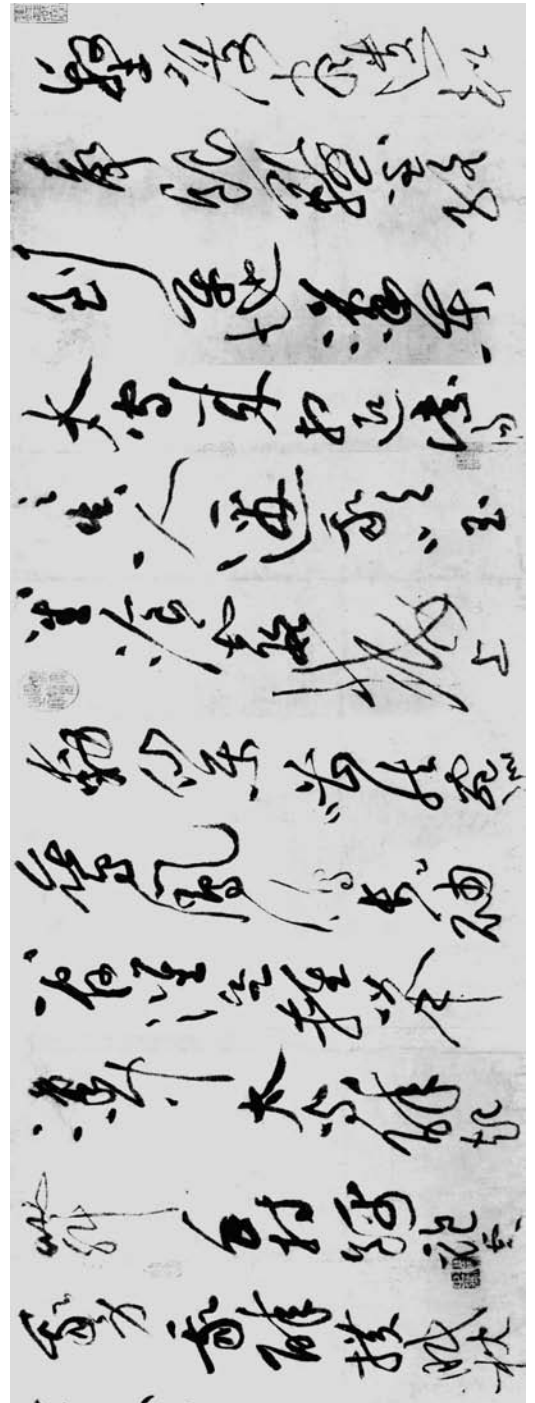
羊士諤

雲天 北戸に宜しく
塔廟 西方に似たり
林下 僧事無く
江清くして 日正に長し
石泉 掬に盈ちて冷たく
山実 枝に満ちて香し
寂寞として 心印を伝ふ
無言 亦た已に忘る



太守
酔いて起って舞う

西
墨濤先生臨書



宋 黄山谷・李太白憶舊遊詩卷

字は魯直、山谷道人・涪翁などと号した。慶暦五年（一〇四五）洪州分寧（江西省）で生まれた。

二十三歳で進士に及第し、地方の官などを歴任したが、時の政府の弾圧を受けて宜州（広西省）へ流され、その地で病没した。（崇寧四年・一一〇五）享年六十一歳。

彼は詩人としても名高く、蘇軾に師事し、後に多くの追隨者を生み、「江西詩派」の祖と仰がれた。

書においては、いわゆる宋の四大家の一人に数えられ、王羲之風の伝統派に対し、革新的な書を追い求め、その反骨的な強い精神力をもって書にうち込んでいった。そして、晩年ほど気力に満ちあふれた奔放さが増していったと言われている。

「李太白憶舊遊詩卷」は、草書に妙手を得たりと自負する彼の代表作である。行の変化や文字の大小の調和とリズム、文字と文字の組み合わせ方や間のとり方など、その変幻多彩な表現を観察してみては…。

（春濤）

清晨入古寺
初日照高林
曲徑通幽處
禪房花木深
山光悅鳥性
潭影空人心
萬籟此俱寂
惟聞鐘磬音

（常建・破山寺後禪院）

清晨古寺に入る 初日高林を照らす 曲径幽処に通じ 禅房花木深し
山光は鳥性を悦ばしめ 潭影は人心を空くす 万籟ここに俱に寂たり ただ聞く鐘磬の音

清溪亭初興竹林外
金支潭序
石木潭山先悅
性潭
新太人
新太人

做書參考

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。

黄山谷「李太白憶舊遊詩卷」を意識しながら線の太い細い文字の大小等を踏まえながら行間も大切にして書いてみました。(墨濤)

漢東の太守　かんとう　たししゅ
管は催して　かん　うなが
来りて相い迎う　きたり　あむか
紫陽の真人　しやう　しんじん
我を邀えて　われ　むか
玉笙を吹く　ぎよくしやう　ふく
餐霞楼上　さんか　ろうじやう
仙楽を動かし　せんがく　うご
嘈然として宛も鸞鳳の鳴くに似たり　そうぜん　あたか　らんほう　な　に
袖長く　そでなが

漢東太守東軒遺德伯之生人
海承以玉生
清氣凌上動仙樂嗚笙苑以
會鳳鳴
長袖容淫乞舞容
漢東

10月25日正午必着

教育部毛筆

芸術

雨宮春聲先生書

げい
芸

じゅつ
術

中学一年

朗詠

菅井松雲先生書

ろう
朗

えい
詠

中学二三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



こ
個

せい
性

小学五年

藤井良泰先生書



しゅう
修

れん
練

小学六年

森戸春濤書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

10月25日正午必着

公平

細谷春誠先生書

こう
公

へい
平

小学三年

屋根

榎戸春龍先生書

や
屋

ね
根

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

く り 小学一年・幼年



かわ しも
川 下

小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

藤田幸春先生書

10月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

西の空をまっかにそ
める夕焼けの美しさ

小学五年

血のにじむような苦
心と努力を重ねる

小学六年

人生は愛に―てその
生命は精神なり

中学

見わたす限り雲はなく
夜空に浮かぶまるい月

一般(級位)

撫子なでこの花はなちり方かたになり
わがまわがまう秋あきぞ近ちかくなるらし
(後撰和歌集・読人しらす) ※ちり方かた：散る頃・時期

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

て	ぶ
	ら
あ	ん
そ	こ
び	に
ま	の
す	つ

幼 年

白	う
い	み
	の
と	か
う	な
だ	た
い	の

小学一年

あ	み
そ	ん
び	な
ま	で
し	元
よ	気
う	に

小学二年

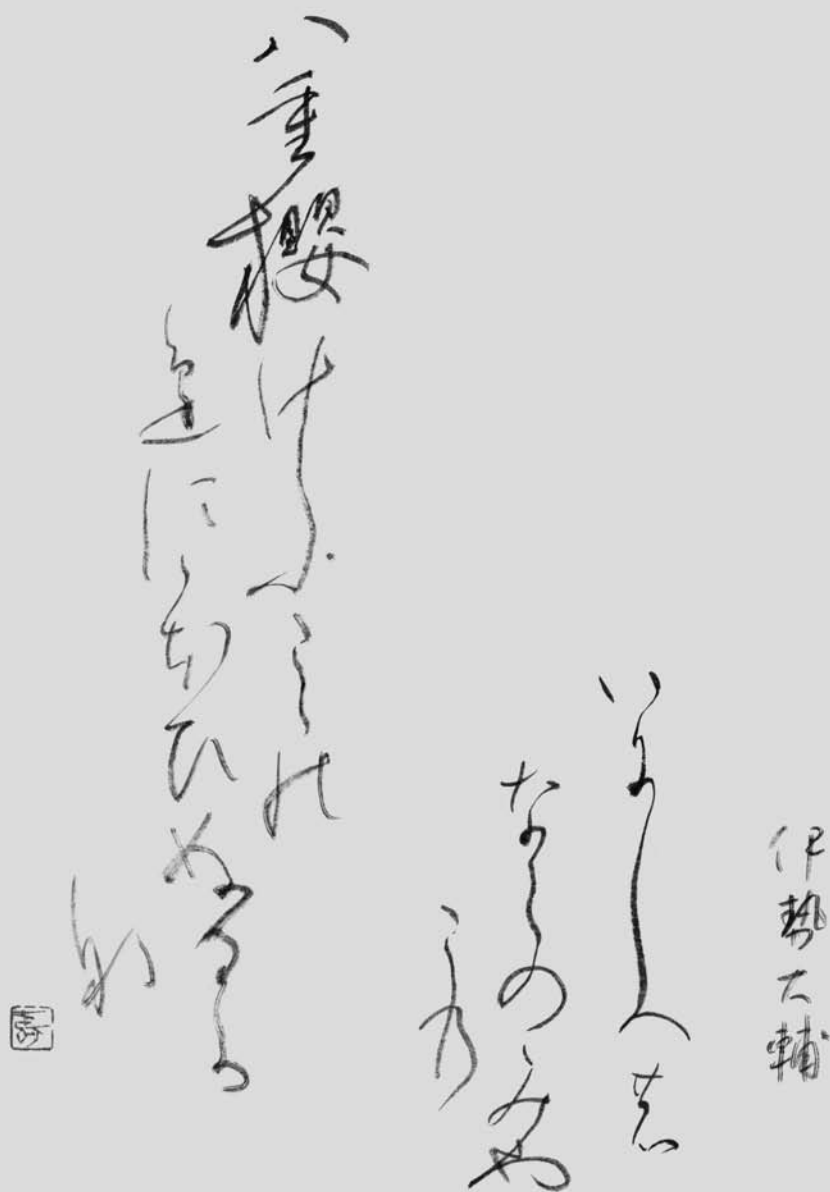
て	赤
も	い
き	タ
れ	日
い	が
で	
す	と

小学三年

化	ど
石	う
が	く
み	つ
つ	で
か	動
っ	物
た	の

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



いにしへの 八重桜 けふこゝのへに ほひぬるかな (詞花和歌集・伊勢大輔)
尔 農 乃 能 邊 本 可 那 いせのだいふ

※にほひぬる…いちだんと美しく咲いている